



熊本県議会議員

高島和男がゆく

令和8年10月号



【「熊本県議会は大丈夫？」——他山の石として】

福岡県議会を巡る一連の問題が世間を大きく揺るがしました。報道後、私も多くの方から「熊本県議会は大丈夫？」と尋ねられました。

福岡では、正副議長ポストを巡る金銭授受疑惑をはじめ、高額で不透明な海外視察、県職員の親睦会による県議会議長の組織的な政治資金パーティー券購入、さらには県議側が職員のゴルフや飲食代を負担する長年の慣行など、議会と執行部との関係について耳を疑うような問題が次々明らかになりました。

では、熊本ではどうなのか…。確かに熊本県議会をはじめ、県内でも近年、議員を巡る様々な問題が報道され、県民の皆様は政治への疑念や不信を抱かせる出来事がありました。その事実から目を背けることはできません。

ただ、今回福岡で明らかになった一連の問題については、少なくとも私が11年間、県議として活動し見聞きしてきた限り、熊本県議会と同様の事実や慣行は承知していません。

しかし、「熊本は大丈夫」で終わってよいとは思いません。長年続く慣行は、いつしか当事者にとって「当たり前」になり、その異常さに気づきにくくなるものです。議会は行政をチェックする立場ですが、私たち議員自身もまた、県民の皆様から厳しくチェックされる存在です。

議会と執行部が馴れ合うことなく、二元代表制にふさわしい緊張感を保つこと。そして、県民に説明できない慣行はつくりたくないこと。福岡県議会の一連の問題を「他県のこと」で済ませず、**他山の石として熊本県議会も常に自らを省みる必要がある**と考えています。



【福岡県議会を巡って報じられた問題】

正副議長ポストを巡る金銭授受疑惑

高額で不透明な海外視察

県職員による組織的な
政治資金パーティー券購入

県職員のゴルフ・飲食代を
議員側が長年負担

【熊本県議会についての私の認識】

私自身、そのような金銭授受は
見聞きしていない

規定に基づき実施し、
視察内容等を県議会HPで公開

私が知る限り、同様の仕組みはない

私自身、そのような慣行を
見聞きしたことはない



【新野球場 「造った後」を考える】

8月県議会定例会、9月3日の経済環境常任委員会で、地震により候補地選定が年内凍結された新野球場について質しました。

甲子園で有明高校の逆転劇に沸いていた8月16日、日経新聞一面に「観戦熱狂でも球児増えず」との記事が掲載されました。プロスポーツの人気とは対照的に、子どもの野球人口は減少、小学生では10年間で4割減。関係者の「このままでは野球が廃れる危機感しかない」との言葉も紹介されていました。

そこで熊本県の実態を調べると、県内の高校硬式野球部員もこの10年余りで約4割減少しています（グラフ参照）。ちなみに、野球施設が数・質ともに充実しているといわれる宮崎、沖縄両県では、高校硬式野球部員数を2014年と2025年と比較すると、宮崎県は2274人から1718人へ約24%減、沖縄県は3420人から2100人へ約39%減、両県でも大幅に減少しています。つまり、競技人口の減少は施設環境だけでなく、説明できる問題ではありません。少子化やスポーツの多様化など、野球を取り巻く環境そのものが大きく変化しています。

【乾杯！】から広がる地域の輪

私は「野球人口が減っているから新球場は必要ない」と申し上げているわけではありません。また移転再整備という方向性を否定するものでもありません。新野球場は野球関係者、観客、誘致自治体・地域、そして県民にとって、将来かけがえのない施設となり得るものです。だからこそ、造る前の議論が重要だと考えます。

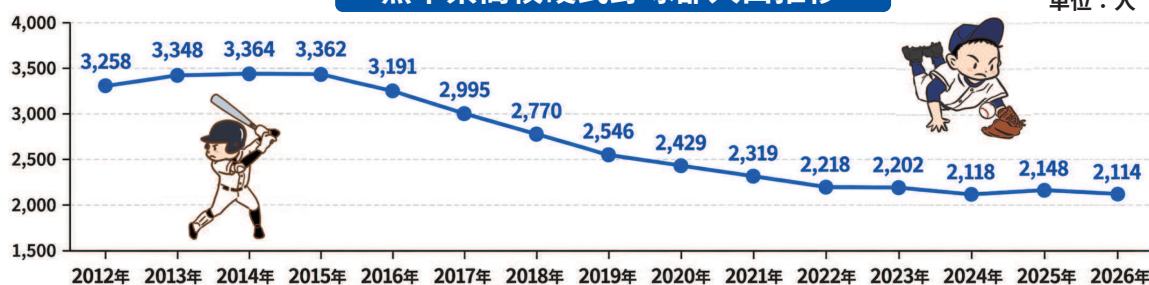
県はこれまで野球関係団体から、球場不足や老朽化、駐車場など施設面の課題を聞き取っています。私は委員会でも、「どのような球場が欲しいのか」と「10年、20年後の熊本の野球をどうしていくのか」は別の議論ではないか？と問いかけました。

企業が大規模な設備投資を行う際、金融機関は将来の需要や収支、事業の持続可能性まで精査します。多額の費用を要し、数十年間維持する公共施設も基本は同じです。県からは、凍結期間を活用して基本計画の策定や内部検討を進め、野球関係団体とも引き続き意見交換を行うとの答弁がありました。

今回の地震では、県営八代運動公園をはじめ県内のスポーツ施設も被災しました。だからこそ、「造った後、誰が、どのよ

熊本県高校硬式野球部人口推移

単位：人



うに、どれだけ使うのか。

競技人口や将来需要、既存施設の維持更新、

将来の財政負担まで見据え、未来の熊本の野球に責任を持てる施設整備を求めています。

9月5日、毎年恒例の「ビール祭り」を開催しました。

県議として、県政の課題に向き合い、より良い政策を考え、実現につなげていくことが私の第一の役割です。一方で、地域の皆さんが気軽に集い、世代や立場を超えて交流できる場をつくることも、地域に根差して活動する議員として大切なことだと考えています。



この会を始めたきっかけは、街中の飲食店組合が主催する「ビール党全員集合」でした。参加して大変楽しく、「地元でも、気軽に参加でき、長く続けられる交流の場をつくりたい」と始めたものです。

今年も多くの皆さんにご参加いただき、会場にはたくさんの方々の笑顔と会話があふれました。人と人とのつながりこそ地域の力。そのご縁を大切にしながら、これからも地域に根差した活動を続けてまいります。



※本稿は9月14日時点の状況をもとに執筆しています。

高島和男事務所

〒862-0962
熊本市南区田迎 2-17-7

届けます！あなたの思いを県政に
高島和男サポーター募集中です！

TEL.096-288-6004
FAX.096-288-6009

動画を毎月公開しております！
ホームページをぜひご覧ください。

<https://takashima-kazuo.com>

Facebookもやっています！

